

# 就業力育成を支援する電子ポートフォリオの開発と運用

菅谷 克行\*1・神田 大吾\*1・神谷 拓平\*2  
 Email: {sugaya, dkanda, kamiya}@mx.ibaraki.ac.jp

\*1: 茨城大学人文学部人文コミュニケーション学科

\*2: 茨城大学人文学部社会科学科

◎Key Words キャリア教育, 電子ポートフォリオ, 大学教育

## 1. はじめに

近年、キャリア教育として就業力の育成<sup>(1)</sup>が教育機関に求められている。大学設置基準では、就業力を「学生が卒業後自らの素質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」とし、これらの能力を育成するための組織的な取り組みを各大学に求めている。その背景として、大卒生の就職状況の悪化や職業意識の希薄化、職業構造の多様化による就職活動の複雑化などが考えられるが、同時に、従来の大学教育が学術的知識に関心が強く、就業に対する配慮が少なかった点等も指摘されている<sup>(2)</sup>。

本稿は、人文系の学生を対象とした就業力育成支援の一つの取り組みである電子ポートフォリオシステムの開発と運用状況について、考察・報告することを目的とする。特に、電子ポートフォリオシステムの位置付け（支援モデル）や開発コンセプト、そして、これまでの運用から明らかになった諸課題について、考察を交えながら概要を説明する。

## 2. 電子ポートフォリオシステムの開発

### 2.1 支援モデルとコンセプト

教育分野におけるポートフォリオは、学生の学びの過程データ（成果物や学習履歴）を蓄積した一塊のファイルである。重要なのは、データを蓄積することが目的なのではなく、評価を含んだ再利用サイクルを含む必要があるという点である。これを電子化することにより、物理的な制約がなくなり、活用の幅が広がる。

本取り組みでは、大学4年間を通じた就業力支援の一部として、電子ポートフォリオシステムを中心に据えた支援モデルを描いた（図1）。そして、このモデルを実現するための電子ポートフォリオシステムとして、

以下の三点をコンセプトとして定めた。

- 大学の教育課程で育まれる素養や専門知識および学内外での諸活動を通じて育まれる能力を、卒業後の就業力と有機的に関連付け可視化すること
- 学生自身による学生生活全般のリフレクション（計画から内省）を支援すること
- 学生と教員の双方にキャリア教育を意識させると同時にコミュニケーションの活性化を支援すること

### 2.2 就業力の定義付け

上述したコンセプトを実現するために、まず社会人基礎力<sup>(3)</sup>を参考にしながら、支援対象である人文系学生の就業力を、以下の6つの能力に定義付けた。

1. 基礎的素養：「読む・聴く力」、「書く・話す力」、「情報処理スキル」、「外国語活用能力」
2. チームワーキング能力：「傾聴・発信力」、「柔軟性」、「状況把握力」、「働きかける力」
3. 考える力：「課題発見能力」、「計画力」、「情報収集力」、「まとめる力」
4. 専門知識：「系統的に学んだ専門知識」
5. 社会生活力：「生活力」、「人間関係構築力」、「規律性」
6. 行動力：「主体性」、「ストレスコントロール力」、「実行力」、「異議発信力」

上記6つの能力のうち、1～4は授業に関連付けられる能力と捉え、授業（研究・ゼミナールを含む）を履修することにより養うことが可能であると考えた。そのため、学生自身に計画や内省を促し授業履修をサポートすることと、授業履修状況（単位修得）によって各能力の獲得状況（伸長状況）を可視化することが、必要な支援であると考えた。



図1 ポートフォリオシステムを活用した就業力育成支援モデル

また5と6の能力は、社会生活の中で養われる人間力・パーソナリティ特性と捉えることができ、授業と直接関連付けることが困難であるが、教員との面談や学業以外の課外・社会活動（サークル、アルバイト、ボランティア、地域貢献、読書、芸術鑑賞等）によって養われる可能性が高い。そのため、学内外での諸活動もカバーしたポートフォリオが必要であると考えた。

### 2.3 ポートフォリオの構成

上記6つの能力をバランスよく育成支援するため、以下の4種類のポートフォリオによって構成されるシステムを開発した。

#### ① PDCA シート

学期毎に、目標達成に向けた計画（Plan）、実行内容（Do）、自己評価・内省（Check）、次期行動内容（Act）を各々適切な時期に記入する。これらPDCAサイクルを通じて、自己実現能力とキャリア設計を支援する。

#### ② 活動ポートフォリオ

学内外での諸活動で経験した内容を、内省や自己分析で活用するための情報として記録・蓄積する。

#### ③ 自己診断ポートフォリオ

各学期末に記入する「自己診断シート」と、各年次末に記入する「総括診断シート」で構成する。行動例・経験例を提示しておき、学生がそれらを参考にしながら自己診断（成長の有無を判断）する。

#### ④ 履修ポートフォリオ

授業の履修状況（単位修得）に応じて、先述の6つの能力の1～4がどれだけ獲得（伸長）されたかを、可視化し、自己能力の把握、内省を支援する。

これらの各ポートフォリオを活用することによって、学生・教員の双方に就業力育成に対する意識を高める（キャリア設計に関する会話や、対面指導のきっかけになる）ことも目指す。

## 3. 運用状況と諸課題

本ポートフォリオシステムは、2012年度新入生から本格運用を始めた。運用後1年が経過し、いくつかの課題が明らかになった。以下、主な課題について、考察を交えながら概要を説明する。

### ・PDCA 記入に関する課題

卒業後のキャリアに対する明確なビジョンを持っていない学生（決して少なくない）にとっては、PDCAの記入自体が容易なことではない。そのため、記入率（活用率）も高いとはいえない。また、手の届かない計画を記入する者もいれば、容易に達成できる計画や本質的ではない計画を記入する者もいる等、記入内容指導に関する課題もある。キャリア設計の専門家による、指導の充実化が必要なかもしれない。

### ・ポートフォリオ活用に対する動機付け

ポートフォリオへの記入は、その内容に関わらず、面倒な作業といえる。それは、学生についてのみではなく、指導する側の教員についても同様である。そのため、活用率がなかなか上がらない。ポートフォリオ活用のメリットを整理し、活用に向けた動機付けを組織的に対策する必要があると考えている。

### ・「書き込みによる指導」に対する配慮

本ポートフォリオには、学生の記入内容に対して教員がコメントを書き込んだり、簡易アドバイス（選択式）ができる機能がある。この機能により、システム上での学生-教員間コミュニケーションを可能としている。しかし、書き込み（文字）によるコミュニケーションに苦慮している教員は少なくない。いわゆるノンバーバルコミュニケーションの欠如による問題である。この点については、慎重にならざるを得ないが、決してポートフォリオ上のコミュニケーションが唯一ではないことを前提に、指導方法を考慮したい。

### ・個別指導の詳細化とプライバシー情報

学生個人に応じて詳細な指導をするためには、学生個人の特徴を理解しなければならない。そのためには、個人の特徴を示す情報（履修状況、読書録、学内外の活動内容など）が必要であるが、これらの情報は、プライバシー情報の一部ともいえる。そのため、「個別指導の詳細化」と「プライバシー情報の入力」は、トレードオフの関係となり、教員が詳細指導を目指して情報入力を促すほど、学生にプライバシー情報の提供を求めることになってしまう。この点に対する配慮・対策については、未だ十分な議論を必要としている。

### ・セキュリティ確保とユーザビリティの向上

高度なプライバシー情報を含む可能性のあるシステムであるため、セキュリティ確保は必須である。しかし、その結果としてユーザビリティが損なわれていること（外部からのアクセス不可等）が問題となっている。これは運用上のポリシーと関わる問題であり、対応に苦慮しているのが現状である。

## 4. おわりに

本稿では、人文系学生を対象とした就業力育成支援の取り組みについて報告した。特に、就業力の定義付けと、その育成を支援する電子ポートフォリオの開発コンセプトや位置付け、運用によって明らかになった課題について、考察を交えながら概要を述べた。運用開始直後のため、現時点で総合的な評価は不可能であるが、明らかになった諸課題に対処しながら、より良い活用方法を模索している段階でもある。従来と比較して、学生・教員双方にキャリア教育の意識を高めるきっかけになっている点は、明るい兆しと考えている。

今後の課題として、上記諸課題の解決・対策、4年間運用によるシステム評価等があげられる。また、長期運用後には、蓄積された大規模データを、データマイニング等の技術によって分析し、キャリア教育の知見を見出すことができれば非常に意義深いと考える。

### 参考文献

- (1) 文部科学省: “大学生の就業力育成支援事業”  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kaikaku/shugyou/1292891.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/shugyou/1292891.htm) [2013.6.10 最終閲覧]
- (2) 金子元久: “キャリア教育の焦点”, 大学教育と情報, 19巻2号 (2010) [http://www.juce.jp/LINK/journal/1004/02\\_01.html](http://www.juce.jp/LINK/journal/1004/02_01.html) [2013.6.10 最終閲覧]
- (3) 経済産業省: “社会人基礎力”  
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.htm> [2013.6.11 最終閲覧]